

DEBUT 首長

北海道函館市長 工藤 寿樹氏



被災企業に用地10年無償で 12月議会で職員給与削減案

北海道函館市 観光・水産業が柱の人口約28万の中核市。人口減少に悩むが仏ミシュランの旅行ガイドでは「函館山からの眺望」に最高の3つ星が付く。

——人口減と高齢化、生活保護受給率増加など課題が山積する中、かじ取りを担う。

主力産業の観光も水産加工も女性が多い職場。若い人、とりわけ男性の職場がないために、首都圏や札幌に人が流出し、まちに元気がなくなっている。

選挙戦でも函館経済の再生を訴えてきた。経済を再生し、若い人の働く場所を拡大していかなければ人口はどんどん減っていく。若い人がいなくなれば、まちの担い手が無くなって、税収も少なくなる。

函館には大企業がなく、中小企業の活力が地域の活力に直結している。人口減の中、もっと自分の商売の範囲を拡大すべきだと言ってきた。商売は勝手に自分でやりなさいという時代ではない。行政が支援してまち全体で経済を再生しなければならぬ時代だと思う。

東京事務所を復活し、振興策につなげたい。地元物産に加え、企業やコンベンションの誘致などあらゆる函館ブランドを売り込む機能を果たしたい。

地元には公立はこだて未来大や北大水産学部などの人材がいるが、企業が生かし切れていない。被災地や首都圏企業を対象に、工業団地を10年間無償で貸す施策を始めた。工場などができれば、職場も生み出せる。

——観光資源に恵まれているが、質を高める努力が足りないと指摘されることが多い。

黙っていてもそれなりに観光客が来る現状にあぐらをかいている部分がある。まちが進化しなければ、観光客はこれ以上増えない。デザインを重視した欧米のような風格のあるまちづくりをしていきたい。

民間調査で都市魅力度は全国で1位2位を争うが、実際に来た人がそう思っているのか。現実にはギャップがあり、ブランドイメージに実態を合わせていくことが課題。ミシュランの観光ガイドで函館市内だけで21地点に星がついた。これ

くどう・としき 1949年北海道乙部町生まれ。早大法卒業後の73年、函館市と合併前の旧亀田市役所入庁。函館市の財務部長や企画部長を歴任。副市長を2009年12月に退き、4月の函館市長選で初当選。趣味は温泉探訪やゴルフ。61歳。

をうまくつなげて歩いて楽しいまち並みをつくり、歩けば観光名所にぶつかる「面」で楽しんでもらえる滞在型の観光地にしたい。

2015年度に北海道新幹線新函館駅（仮称）が開業するが、新幹線開業までにJR函館駅前の再生もなし遂げたい。駅前のシャッターが目立つ商店街と空き地は函館衰退の象徴になっており、何とか活性化したい。

——選挙公約に市職員の人員費削減を掲げ、支持を集めた。

将来的には民間並みの給与ベースを作る。今年度から赤字債を発行しないと宣言した。当面の財政再建策として職員の給与削減効果を早急に示したいので、12月議会での条例改正に間に合うように議論を進めたい。

今まで組合交渉は水面下でやってきたが、公開の場でやる。市民を味方にして行革を進める手法を考えないといけぬ。

（聞き手は

函館支局長 山本 公啓）